



厳島の休日

菅野 健一

リスクモンスター
代表取締役CEO

先日、出張の合間の祝日に日本三景に数えられる景勝の地、厳島を初めて訪れる機会を得た。当日はあいにくの小雨模様であったが、霞がかかり幻想的な厳島の山並み、海上に凜と立つ大鳥居は、筆舌に尽し難い美しさで素直に感動した。

また、広島取引先の方に、かつての厳島神社本願職であり弘法大師縁の厳島弁財天を奉安する大願寺の平山住職をご紹介いただき、貴重なお話を伺うことができた。

平山住職のお話の中で特に印象に残ったものは、「古来日本人は自然を恐れ奉ってきた民族であり、海上交通の要所でもあり荘厳な姿の厳島が信仰の対象になった」「海に浮かぶ神社は、何度も荒天により流されているが、そのたびに修復して現在に至っている。もともと壊れることを前提とした、まさに『諸行無常』という思想で建立されているため、はかなさがあり、日本人の心に響く美しさがある」の二つである。

2011年は、人間が自然の力の前ではいまだに無力に等しいということを痛烈に思い知らされた年となった。現代の快適な生活、科学・技術の進歩を頭から否定するつもりはない。しかしながら、人間の営みは自然を恐れ奉り、『諸行無常』であることを前提にするべきではないか？ 近視眼的な経済合理性のみを追求することを反省して、あらゆることを謙虚に組み立て直すことが必要なのではないか？ 私だけでなく似たような思いを持っている方も多いはずだ。

2012年のNHK大河ドラマの主人公は平清盛だ。清盛は頂点を極めた後に出家し厳島神社を現在の美しい姿に造営するが、最後は没落してしまう。激動の人生を送った英雄がどのように描かれるのか楽しみである。平家物語の冒頭に『驕れる人も久しからず』という一節がある。2012年はこの一節をよくかみしめて、明るい未来のために新しい価値観を創造するスタートの年にしたい。私も微力ながら自社の経営や経済同友会の活動を通じて貢献したいと思う。

数々の歴史の舞台となった厳島のパワーを感じ、過去—現在—未来と思考を巡らせることができ、明日への活力を得た有意義な休日であった。